

# 恩師のいま



福田 寛孝 先生

FUKUDA HIROTAKA

中・高等学校[茨木]  
2007年4月1日～在職中

着任1年目で茨木54期の高校2年生を受け持たせていただきました。20代の若輩が思い描く教師の理想と、青春を謳歌する子供たちの溢れる力との相克の日々だったのではと今は懐かしく思い出されます。笑い合い、怒り、泣き、怒って、近づき、離れて、そしてまた笑う。出会ったたくさんの子供たち、共に過ごした大切な時間が私を成長させてくれたように思います。あれから19年、学年主任として茨木71期生の子供たちを入学から卒業まで見守らせていただいております。採用面接で「教師としてあなたの大切にしたいと考えていることは？」という問いに、「簡単なことではないと思いますが、待つことです。」と応えた私。若かりし頃は、苛立ちと押しつけが先行して理想と現実の振る舞いが一致しなかったことも、歳を重ねることで、少しずつですが理想に近づけているように感じます。追手門での残りの15年、そんなワクワクを伝えながら、今を生きる子供たちと楽しく過ごしていきたいと思っています。



津田 克彦 先生

TSUDA KATSUHIKO

小学校  
1974年4月1日～2012年3月31日

私が学院を離れて10年が経ち最後に卒業証書をお渡しした子ども達も成人になり、社会でご活躍のことでしょう。

小学校の卒業生の皆様のご活躍をいつもうれしく拝見していますし、そのような卒業生を輩出している学校の教員として38年間在籍できたことは私の誇りでもあります。楽しい教員生活でしたが、はたして全員が満足のいく学校生活を送ってくれていたのだろうか、中には辛い思いをして過ごした子ども達、学校生活に困難を抱えた子ども達がいたのではないかと、私にもっと出来ることがあったのではないかと、そんな思いで学校心理士の勉強を始めました。在職中、その力を発揮することは叶いませんでしたが、他校で子ども達の支援の場をいただき、不登校や発達障害的困難を抱える子ども達を少しは助けることができたと思っています。在職中もう少し支援をしてあげられることができたのではないかと、これが、楽しかった多くの思い出と共に、心に残っていることです。



岩崎 裕保 先生

IWASAKI HIROYASU

大手前中・高等学校  
1976年4月1日～1991年3月31日

大手前中高の教員になって、恩師の森敬繁先生と机を並べるようになったことは嬉しくもあり身の引き締まる思いでした。晩年ご自宅に招いて下さり、蔵書の中から「欲しいものを選びなさい、送るから」と言って頂き光栄でした。

初めての担当学年の27期(高1)生が僕に「スナフキン」というニックネームをくれました。追手門での最終日には「もう一度授業を!」と40期(高2)生が集まってくれました。自責・自戒を覚えることもありましたが、意義深い年月でした。

その後、大学の教員となり、NGO活動に割く時間が増え、今も「開発教育協会」顧問と「関西NGO協議会」監事を務めています。このところの活動の軸はSDGsです。

数年前に『花森安治と「暮しの手帖」』(小学館、共著)を上梓しました。定年退職後は奈良の町中に住まいを移し、生豆を自分で焙煎してコーヒーを淹れ、バロックやジャズ、そして読書を楽しむ毎日です。

誌面の都合で全文の掲載ができておりません事をお詫び申し上げます。

以下のリンクから山桜会ホームページにアクセス頂き、ぜひ全文をご覧ください。

<https://yamazakurakai.com/archives/category/column/topics/teacher-new>



## 訃報



追手門学院大手前中・高等学校 元校長 大村茂先生 が  
2020年1月27日にご逝去されました。

大村先生は、長年にわたり多くの生徒を育て教育に努めてこられました。

在りし日を偲び、心よりご冥福をお祈りいたします。

